

2017年度 研究活動記録

テーマ: 自然への誘い



研究活動1 班活動記録

班長 富本佑一郎

副班長 明川 貴仁

班員 3回生 上原聖孝 林和樹

2回生 木村優介

1回生 伊藤紀憲 西村智貴

1、活動記録のテーマ

快適なテント生活を送るための問題点とその改善方法

2、このテーマにした理由

テント泊をするとき、色々問題が起きるのでそれを改善して快適なテント泊を送れるようにするため。

3、活動記録

1回目 日時：4月15日 場所：サイバーライブラリ

目的：今後の活動に対して何をするのかを話し合い、発表。いつに何をするかを相談した。

内容：テントに泊まった際に起きるいやなことと改善を発表した。

結果：テント泊で起きる嫌なことが多数判明し、そしてその改善策も色々方法として出てきた。そして、研活合宿でやる物を決定した。

反省：先に宿題として、テント泊で起きる嫌なこととその改善策を考えてもらったらもう少しスムーズに進んだかもしれない。

全体：初めての研活で不安しかなかったが、みんなが真剣に考えてくれたので色々なテント泊の欠点やその改善策が多数案として出てきたので次回の研活でもこの調子でいきたいです。

2回目 日時：5月13日 場所：住吉川

目的：テントの下にシートを引いてどのくらい浸水が抑えられるかを研究

内容：テントを2つ建てブルーシートを敷いたテントと敷いてないテントの時間を測定したりしてどのくらいの速さでテントの中に浸水をするかを研究した。

結果：ブルーシートを敷かない方のテントの時間を測定すると、1分くらいで浸水が開始、5分くらいで浸水が面積の4分の3侵攻をした。シートを敷いた方は全く濡れる気配は全くなし。

反省：準備段階で、具体的にどのようにするかなどを固めておくべきだった。

今回の目標ばかりに固執するのではなく、他に色々なことができるのではないかを考える。今回の土が少し乾き始めていたため、チャンスがあればもう一回やりたい。

全体：今回突然の雨が出て内容変更をしたため、少し焦ったが、活動はできた良かった。しかし結果がまだ不十分なため、チャンスがあればもう一度やりたい

3回目 日時：6月4日 場所：住吉川

目的：石や砂利などによる凸凹の緩和、暑さ防止策。

内容：段ボールをテントの下に敷きテントに入って床の具合を調べた。そして暑さ防止系ではテントの周りにバケツで水をまく、テントの中にクーラーボックスいっぱい氷を置く、そしてタープ・ブルーシートなどで影を作りそこにテントを建てる。

結果：段ボールを敷くのと敷かないのでかなり変わりテントに入っている際の足の痛みはもちろんなくなり他にも床でノートなど書く作業も難なくできることも分かった。そして暑さ防止策のテント内に氷を置く、打ち水を撒くではあまり大した効果は確認されなかったがタープやブルーシートで影を作ったところにテントを建てるとう日に建てたテントと比較すると4℃の差ができた。

反省：準備物を間違えてしまい時間を取ってしまったので中身も確かめてから準備するようになる。時間がかかるものが多かったなのでその間にできることを考えてみる。テントの立て方がわからないものがあつたので調べてから立てる。

全体：今回実施した凸凹の緩和策では正直あそこまで過ごしやすくなるとは思わなかった。あそこなら寝る時も平らな床で寝ることと全く変わらないのでテント泊する行事では活用ができると思われる。あと、タープとブルーシートならタープの方が立てやすいというのもありお勧めするが風などに弱いという弱点があるためそこは気をつけたいところである。そして1つわかつたことは、影を作るとテント内の室温が下がるが、そこに風を通すことで体感温度が下がることが分かった。



4回目 日時：8月22日 場所：住吉川

目的：ドーム型テントとムーンライト型テントで風通しの比較をする。霧吹きをテント内で吹き涼しく感じるか。

内容：ドーム型テントとムーンライト型テントを両方建てて温度計を装着した。そして約20分待ち温度計と体感温度を確かめた。そしてもう一つのテント内を霧吹きで冷やしてみた。

結果：ドーム型テントとムーンライト型テントを建てて温度計を測るとあまり変わらなかったがムーンライト型テントの出入口の広さがドーム型より大きいため、風通しは格段にいいため体感温度は涼しく感じる。

霧吹きはあまり効果がなかった。

反省：準備リストを作って、対処する。ドライアイスは、予約できる店を重点的に考える。時間計画表を建てる。

全体：今回本当はドライアイスがテント内に撒き室内を冷やせるかを確認するのをやるつもりだったが、店のドライアイスが売り切れてあったため、次からは、予約ができる店で予約をしていくようにしたい。ムーンライト型は入り口が広いので風通しが良いので、そこにタープを建てて影を作るとなお過ごしやすくなる。



5回目 日時：9月14.15日 場所：甲山キャンプ場

目的①：テントの近くにランタンを置き、明かりで虫を引き付ける

内容①：夜になった後、テントの入り口は開けておき、テントから約1メートル位のところに電池式のランタンを置き明かりをつけ虫を誘導してみた。

結果①：ランタンの光をつけた直後に虫がかなり寄ってきてテントの中には虫が全く入っている様子はなかった。よって、今回の実験はかなり効果があることが分かった。

目的②：アロマオイル（柑橘系）のにおいでテントに吹きかけて虫の侵入を防ぐことはできるか

内容②：テントの入り口は開けておきテントの周り（出入り口付近を重点的に）蜜柑のにおいがするアロマオイルをスプレーで吹きかけて一晩置いといた。

結果②：朝様子を見ると、蚊は入っていなかったが蛾が1匹侵入していた。よってアロマオイルのにおいは特定の虫に効くが、効かない虫もいることが分かった。

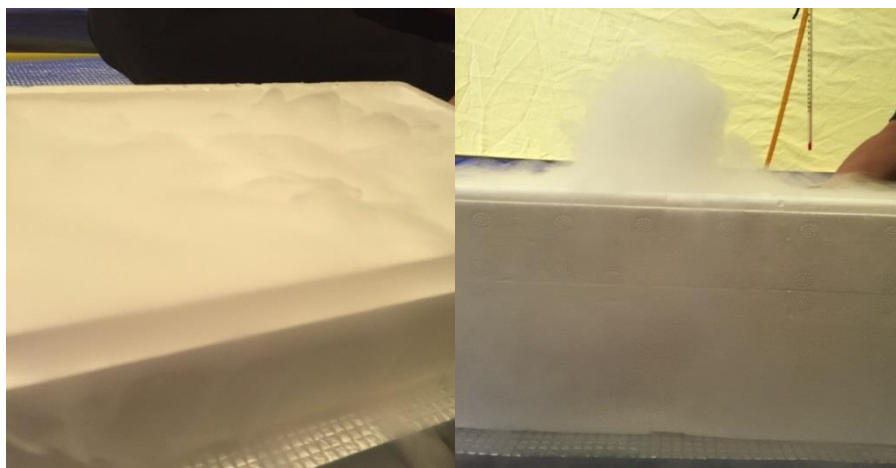
目的③：テントの中にドライアイスを入れたときの冷気でテント内を冷やせるか

内容③：発泡スチロールの中に水を入れその中にドライアイス1キロを入れて冷気を出しテントを冷やす。

結果③：水が入った発泡スチロールにドライアイスを入れた瞬間冷気が爆発的に発生し、室温が4℃下がった。しかし、持続時間は20分と短めであった。

反省：特になし

全体：ランタンの実験については、LEDのライトではなく蛍光灯のようなライトが入った電池式のランタンを使ってかなりの虫が引き連れられてテントに全く入らずかなり効果があった。アロマオイルは、かなりにおいがきついものを選んだが、匂いのきつさは虫にはあまり効果がなかったようです。ドライアイスは、最初は、砕かずに1キロそのまま入れてみたが、二つに分けて入れてみると、若干強くなった。



4. 全体のまとめ

今回のテント泊の改善策はどれも身近にあるようなものや、安価で手に入れることができるものばかりでやってきたので、実施は普通の人でも可能だと思いました。しかし失敗をしてしまったりもう少し工夫ができたものなどもあったので、これらを改良してもいいと思いました。今回の改善策を是非、宿泊行事で使ってほしいと思う。

5. 班員の感想

班長

富本佑一郎：今回研活班長をやらせて頂いて失敗や反省もありましたが、良い結果などもあったので楽しかったです。研究内容としては、自分が疑問に思ったものや気になったものを実施してそれが改善策となり、今後の活動にやってくれたら嬉しいです。

副班長

明川貴仁：テント生活で快適に過ごす為に1年間研究してみて、時には失敗もありましたが楽しく活動することができました。テント泊はキャンプの醍醐味の1つでもあるので、もっと活用してみてもいいなと思いました。

班員

林和樹：毎年、夏季のキャンプ行事での虫対策が不十分だったので、ぜひ今後の活動に役立ててほしい。

上原聖孝：テーマが今までに無いもので、研究内容を考えるのがかなり難しかった。内容をより深く詰めることができれば、最強の研活になると思いました。

木村優介：今年の研活ではテントの研究ということでY.H.Mの推進につながるテーマもあるので、良かったです。

西村智貴：テント泊というのをしたのが人生初だったのでとても新鮮でした。今回の研究活動で得た知識を用いて今後の行事を有意義なものにしていこうと思います。

伊藤紀憲：工夫1つで普段より快適なテントでの過ごし方が出来る事がわかり、とても有意義な時間を過ごしてよかったと思います。来年度は今年研究した事ができるように努力したいです。

研究活動 2 班活動記録

班長 井上詩雲

副班長 藤井風希

班員 3 回生 石川悠稀

2 回生 石野拓也

1 回生 阿部萌乃 前田海史

1. 研究活動のテーマ

初心者でもできる飯盒炊爨

2. このテーマにした理由

飯盒炊爨の要となる火起こしについて研究、発表を行うことで、自クラブの発展にも繋がり、発表を見て頂いた皆様にも野外活動に対して興味を持ってもらえると考えたため。

3. 活動記録

1 回目 日時：4 月 15 日 場所：部室

目的：今後の方針を固める

内容：学園祭で発表する内容、実際に活動する日程、次回の活動で何をするかを話し合った。

結果：今後の方針を固めることができた。

反省：班長がもう少し内容についての案を用意してきていたら、よりスムーズに話し合いが進んだのではないかと感じた。

全体：いろいろな薪の組み方の特性を評価する上での基準など、細かい部分まで話し合えたので、今後の活動がかなりやりやすくなった良いデスクワークだったと思う。

2 回目 日時：5 月 13 日 場所：甲山キャンプ場

目的：藤原組と有吉組の比較、市販の着火剤の有用性の確認

内容：藤原組と有吉組を同時に燃やして見て、

- ・火のつけやすさ
- ・火の高さ
- ・火の広さ
- ・火の持続力

の 4 点について比較を行った。ついでに市販の着火剤の有用性についても検証した。

結果：火のつけやすさと火の高さは藤原組が、火の広さと火の持続力は有吉組が強かった。

市販の着火剤についても、新聞紙で火をつけたときのように灰が飛ぶこともなく、比較的煙で目が染みることもなかったので、今後の行事で若干コストはかかるが使用していくのもいいのではないかと感じた。

反省：特になし

全体：藤原組と有吉組で上手く長所が分かれたので、組み合わせると互いの短所をカバーできるのではないかと考えた。次回の研活で検証したいと思う。

3回目 日時：6月17日 場所：甲山キャンプ場

目的：藤原組から有吉組に組み替えるやり方、有用性の検証。また着火剤としての布ガムテープの有用性の確認。

内容：火のつけやすい藤原組で火をつけ、火がついたのち持続力の高い有吉組に組み替えるというやり方を実践した。また着火剤としての布ガムテープの有用性も検証した。

結果：組み替えは成功したが、ある程度火が安定してからでないといと火が消えてしまうので、若干上級者向けなのかもしれない。だが火のつけやすさと持続力を両立することができるので、かなり有用かと思われる。また、布ガムテープはかなり長時間燃え続けることが分かった。量産も可能なため、有用な着火剤だと思われる。

反省：交通機関と時刻表を調べておくべきだった。

全体：藤原組から有吉組への組み替えは成功する条件が曖昧なためもう少し実践が必要だと感じた。

4回目 日時：8月22日、23日 場所：しあわせの村

目的：藤原組から有吉組への組み替えの実践。キャンプファイヤーの薪の組み方「インディアンスタイル」の実践。牛乳パックと新聞紙の着火剤としての有用性の確認。

内容：1日目に藤原組から有吉組への組み替えの実践を、牛乳パックを着火剤にして行い、夜間にキャンプファイヤー「インディアンスタイル」の実践を行った。

2日目は藤原組から有吉組への組み替えの実践を、新聞紙を着火剤にして行った。

結果：藤原組から有吉組への組み替えは大体火がついてから10分程度たってから行くと成功することが分かった。牛乳パックはとてもよく燃え、すぐに薪に火をつけることができた。火のつけやすさはNO.1だと思われる。一方新聞紙は灰がすごいのが気になった。やはり特筆して新聞紙が優れている部分はなかった。強いて言えば用意のしやすさぐらいか…

「インディアンスタイル」の持続時間は30分程度で、飯盒炊爨用の薪でも人の身長程度の高さの火になった。インディアンスタイルは高さ重視の短時間向き

の組み方だと思われる。

反省：特になし

全体：研究も内部充実もしっかりできた素晴らしい研活合宿だったと思います。

5回目 日時：9月16日 場所：部室

目的：学祭パネルの大まかな構成の決定

内容：学祭パネルの大まかな構成について話し合った

結果：学祭パネルの大まかな構成が決定した

反省：特になし

全体：本来この日はキャンプ場で実際に研究を行う予定でしたが、台風の接近の影響で断念せざるを得ませんでした。残念です。ですが学祭パネルについてのアドバイスをたくさん頂けてパネル作成のイメージを膨らませることが出来たので、有意義なデスクワークだったと思います。

4. 全体のまとめ

それぞれの薪の組み方の利点だけを活かす組み替え技は、難易度は高いですが有用だと思います。着火剤は、薪に直接貼り付けられる布ガムテープ、単純に高火力な牛乳パックが強かったです。これからのユース行事でも活かしていきたいと思います

5. 班員の感想

班長

井上詩雲：班員みんなでワイワイ料理を作りながらの研究活動はとても楽しかったです。頼りない班長でしたが、班員の皆さんの助言や協力があったので何とか研究活動をやり遂げることができました。自分で言うのもなんですが、かなり画期的な薪の組み方を発明したのでぜひこれからの活動で活かしてほしいなと思います。

副班長

藤井風希：研活2班ではいつも楽しく、有意義に研究活動ができたと思います。飯盒炊爨の基本となる火付けを研究・発表できたのは、「他人を自然に連れ出す」という点で大きく貢献できたのではないかと思います。今後のユースの活動でも役に立つことが多いと思うのでぜひこの研活の研究を活かしてほしいと思います。

班員

石川悠稀：火が好きなので火に関する研究に携われて良かったと思います。

今後のユース活動に活かしてください。

石野拓也：一年間研活を行い薪の組み方や火への理解が深まり大変役に立つ経験が

できました。今後のユースでの活動に活かしてよりより YHM の推進を行えるよう頑張りたいと思います。

阿部萌乃：自分の身近にあるものを着火剤として使ったり薪の組み方で火をつけやすかったり、火力が出たりといろいろ知る事ができてよかったです。

前田海史：有効な薪の組み方や着火剤について学べてよかったです。これからどんどん牛乳パックを使っていこうと思います。

研究活動 3 班活動記録

班長 大辻尋稔
副班長 増田将大
班員 3 回生 荒田昌洸 大槻健二
2 回生 東郷佑哉
1 回生 内藤美咲 宮内慶二

1. 研究活動のテーマ

時間短縮！？キャンプで使えるお片付けテクニック

2. このテーマにした理由

キャンプの際に洗い物で苦勞するという方が多いと思います。

その悩みを少しでも解消できれば、よりキャンプを楽しんでもらえるのではと感じたからです。

3. 活動記録

1 回目 日時：6 月 13 日 場所：部室

目的：今後の活動内容について、第 2 回に向けて

内容：今後の研究活動の全体的な見通しを立てること、次回の活動をスムーズに行うための話し合い。

結果：次回の野外炊事は、六甲 YMCA で行うことに決定しました。メニューがカレーなので飯盒、鍋とキャンプ行事でよく使える備品で研究活動が行えます。研究の具体的な内容については、各自担当を決め、部会後の時間を用いてプレゼンを行い、内容を 2 つか 3 つに絞ろうと考えています。

反省：キャンプ場の予約時期が遅く、野外炊事の場所確保に苦戦しました。

全体：キャンプ場の予約がギリギリになりましたが、近くに水道のある場所で研究活動ができることになり非常によかったです。前半で可能性の秘めた洗浄技術を発見し、後半で発表できるぐらいの内容まで研究を行い、周りから驚かれるような研究になるよう、次回からも努めます。

2 回目 日時：6 月 17 日 六甲山 YMCA

目的：コーティングに使用するクレンザーと食器用洗剤の違いを検証

内容：クレンザーを塗る、食器用洗剤を塗る、何も塗らない、の 3 つの備品を使い飯盒炊飯を行う。その後、洗う際にどの備品が早く汚れが落ちるかを検証する。

結果：何も塗らない。は、やはり時間が掛かりました。食器用洗剤は想像以上に汚れ落ち

が良かったため期待が高まりました。

反省：施設の関係上、検証に使用する備品が飯盒と鍋と異なるものを使用しての検証となりました。次回、備品を統一して検証しようと考えています。

全体：食器用洗剤を初めて使用し、実験を行いました。行事で使えるのではと可能性を感じました。これからの活動で何度か実験を続けていきたいと思います。



3回目 日時：8月23、24日 しあわせの村

目的：コーティングに使用するクレンザーと食器用洗剤の違いを検証、重曹を用いた洗浄

内容：備品を統一して、クレンザー(粉)と食器用洗剤で違いを検証した。重曹を片付けに用いると早く汚れが落ちるのではないかという疑問を検証。

結果：食器用洗剤の方が汚れ落ちが良いという結果になりました。重曹を用いた場合と洗剤を用いた場合でも片付けの時間はあまり変わりませんでした。だが、重曹には消臭の効果があるため備品についた炭のおいが無くなりました。

反省：クリームクレンザーを用意するのを忘れていて、今回は粉クレンザーを水で溶いたものを用いて行いました。普段の行事で使用するのは、クリームクレンザーなのでもう一度クリームクレンザーを用いて行いたいと思います。

全体：重曹、食器用洗剤と密の濃い活動が合宿を通してできました。

重曹は消臭効果が期待できるため、行事で活用できると思います。

4回目 9月15日 甲山キャンプ場

目的：コーティングに使用するクレンザーと食器用洗剤の違いを検証、新聞紙を用いたかまどの清掃法

内容：クリームクレンザーと食器用洗剤でコーティングの優劣の最終決定。

新聞紙を水に濡らしかまどに入れ清掃すると細かい灰が飛ばずにきれいになるを検証

結果：クリームクレンザー、食器用洗剤とあまり大差はなかったと思います。

新聞紙を用いた清掃方法は、情報通り灰が飛び散らずにきれいになりました。

行事等で使えるテクニックだと思います。

反省：準備物をしっかり確認したため、買い忘れ、忘れ物なく活動を行えました。

4回の活動を通してとても内容の濃い検証ができたと思います。

全体：クレンザーを超えると言った結果にはなりませんでしたが、クレンザーの代用という点が行事で活用ができると思います。

今までの比較実験で結果を残すことができ、有益な研究ができたと自負しています。



4. 全体のまとめ

食器用洗剤をクレンザーの代わりとして用いることができるという結果になりました。今まで、クレンザーと食器用洗剤を準備していたので荷物を減らすことができるのではないのでしょうか。他にも、重曹やかまどの清掃と少しの手間で片付けが快適になるので行事に活用にて欲しいと班長として感じます。

今後の行事で取り入れるかは、行事の実行に任せたいと思います。

5. 班員の感想

班長

大辻尋稔：自分がやりたかった内容を1年間、研究することででき、とても充実した内容になったと思います。施設の予約や活動の計画を立てたりと苦勞する部分は多々ありましたが、班員に楽しんでもらえたり、結果を残せた時はやりがいを感じました。

副班長

増田将大：今年一年色々とありましたが無事に終わりよかったです

班員

荒田昌洸：これまで甲南ユースの中では当たり前だとされていた常識を1から見直し、しい試みを色々してきて新発見などもあり楽しく活動することができました。これからも画期的なものをたくさん見つけてよりよい野外活動ができるようになればいいなと思いました。

大槻健二：斬新なテーマで有意義な研活ができ、さらに今までの概念を覆すような結果を得ることができました

東郷佑哉：楽しく研究出来て良かったです。これからの行事で大いに役立つと思います。

内藤美咲：食器用洗剤や重曹など身近なものを使って洗い物について研究をした。どれも

汚れが早くきれいに落ちてすごいと思った。クレンザーの代用品としてこれからの行事でも使えそうだった。

宮内慶二: 今回の研活を通して、これからのユース活動が有意義なものになると思います。学祭の時には他大の人が甲南の研活パネルを見て好評でしたので、とてもやりがいを感じました。